

科目区分	専門教育科目	授業科目名	カリキュラム論Ⅱ			科目コード	25Y217	担当者	本村 弥寿子			担当形態	単独
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	1年次	開講学期	後期	単位数	1	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	保育士必修		
授業形態	講義	履修条件	「カリキュラム論Ⅰ」を履修済みであること。								教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分	
実務の経験を有する教員担当科目	該当	実務の経験内容及び科目との関連	幼稚園と小学校の勤務経験がある。この勤務経験を基に保育計画の種類や立案方法を教授し、保育指導案作成の授業を行う。								科目に含めることが必要な事項		

授業の主題	保育指導案の作成について学び、保育の基本を踏まえ発達段階に応じた保育指導案の作成方法を修得する。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	作成した保育指導案を添削後返却し、作成方法についての理解が不十分な点について確認を行う。場合によっては授業時間外に個別指導を行う。
授業の方法	3つの保育場面を想定し、保育の基本を踏まえて指導計画を作成する演習を行う。	アクティブ・ラーニングの実施方法	参考となる文研や資料等を自ら用意し学修を深めたり、グループディスカッションを通して保育内容や方法について考えを深めたりする。

回数	授業計画	事前・事後学修
第1回	オリエンテーション、 保育指導案（課題1）の原案作成	「カリキュラム論Ⅰ」を振り返っておく。
第2回	課題1の指導細案確認と指導案作成	課題1の指導細案を作成する。
第3回	課題1の振り返り 保育指導案（課題2）の原案作成	課題1を作成しておく。
第4回	課題2の指導細案作成	課題2の指導原案を完成させておく。
第5回	課題2の保育指導案作成	課題2の指導細案を作成しておく。
第6回	課題2の振り返り 保育指導案（課題3）の原案作成	課題2を完成させておく。
第7回	課題3の指導細案作成	課題3の指導原案を作成しておく。
第8回	課題3の保育指導案作成 課題1・2・3の振り返りと学外実習に向けての心構え	課題3の指導細案を作成しておく。 授業後、課題3を完成させる。
		事前・事後 学修時間 (分/授業1回)
		180分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	なし	受講生への メッセージ	子どもの主体性を尊重し、発達段階にふさわしい保育を構想し、それを指導計画に書き表す力を身に付けましょう。
参考書 [書名/著者名/出版社]	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社		

評価基準																	
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点 学修成果の 比率(%)	評価方法の配点比率(%)					学修成果の小分類			尺度					
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S:100~90%)	レベル4 (A:89~80%)	レベル3 (B:79~70%)	レベル2 (C:69~60%)	レベル1 (F:59%以下)
観点	尽心	① 学習意欲	20					20	積極的に課題に取り組み、指導案作成方法を身に付けようとする。	向学心、真面目さ	受講態度 提出物(保育指導案)の提出期限	指導案作成のための資料収集等に積極的に取り組み、課題を丁寧に仕上げ期限前に提出できる。	指導案作成のための資料収集等に積極的に取り組み、期限を守って課題提出ができる。	指導案作成のための資料収集を行い、期限を守って課題提出ができる。	指導案作成のための資料収集等は十分ではないが、課題に取り組み提出できる。	課題を提出できない。	
		② 規律性															
	創造	知識・技能	③ 知識	30			30			指導案作成の基本事項を理解している。	専門的知識	提出物(保育指導案)の記述方法の理解	保育指導案作成に必要な知識を十分に修得し、作成に適切に活かすことができる。	保育指導案作成に必要な知識を十分に修得し、作成に活かすことができる。	保育指導案作成に必要な知識を修得し、作成に活かすことができる。	保育指導案作成に必要な知識をある程度習得し、作成に活かそうとしている。	保育指導案作成に必要な知識を修得しておらず、作成できない。
			④ 技能	30			30			保育種基本を踏まえた保育を構想し、保育指導案を作成することができる。	専門的スキル	提出物(保育指導案)の記述内容	保育の基本を踏まえた保育を綿密に構想し、それを明確に記述できる。	保育の基本を踏まえた保育を構想し、それを明確に記述できる。	保育の基本を踏まえた保育を構想し、それを記述できる。	保育を構想し、それを何とか記述できる。	保育の構想ができず、記述することができない。
		思考・判断	⑤ 情報活用能力	20			20			発達段階に応じた保育を構想するために必要な資料や情報を収集し指導案作成に活かすことができる。	情報収集及び活用する力	提出物(保育指導案)の記述内容	レジュメや様々な資料を参考にして発達等に応じた保育を構想し、指導案を作成することができる。	レジュメや資料を参考にして自分なりに保育を構想し、指導案を作成することができる。	レジュメや資料を参考にして保育を構想し、指導案を作成することができる。	レジュメや資料も少し参考にしながら保育指導案を作成することができる。	レジュメや資料を参考にできず、指導案を作成することができない。
	表現	⑥ 課題解決力															
		⑦ 言語活用能力															
	実践	⑧ コミュニケーション力	⑨ 主体性														
			⑩ 協働性														
	合計			100			80		20								